お手軽６００字エッセイ　その２

北原誠二

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
お手軽６００字エッセイ　その２

【Ｎコード】
Ｎ１７０５Ｄ

【作者名】
北原誠二

【あらすじ】
寒くなって来ましたね。少し心の暖まるお話を聞きました。

東京もだんだん寒くなってきましたね。
心まで寒くなってはいけないのでちょっと暖かいお話です。
友人のSさんから話聞いた話です。
Sさんは本人も認めるキリスト教の信者で（宗派は分かりません。）
毎週、教会の手伝いをしているそうです。
その教会でお葬式があったそうです。
亡くなった方は看護婦さんで、親族だけの寂しいお葬式らしく教会の関係者と数人のお葬式になりました。
Sさんもそれをお手伝いした人の一人でした。
式の最中にSさんが教会の建物の外にでると汚い格好をした数人のホームレスが教会の前をうろうろしていたそうです。Sさんはしばらく様子をうかがって居ましたが、どうもそのホームレス達は教会の周りを何度もうろうろしているらしい。
Sさんは正直、食べ物か何かが欲しくてうろうろしていると思って、思い切って声をかけてみました。
「どうしたんですか。よかったら教会へ。」
そう声をかけたそうです。

「えっ！どうも、いや。」
ホームレス達は返事に困って居ました。

「何なんですか。」
教会も物騒な時代です。前に強盗に入られたことをSさんは強めにいいました。
するとホームレス達はいいました。

「〇〇さんのお葬式はここでやっているんですか？」

意外な答えでした。

「あ、はい。」
Sさんは答えました。

「さようならをいいに来たのですが、ご家族に迷惑かと思って考えていました。」

「えっ。」
Sさんは家族に承諾を取ってホームレス達をお葬式に連れて行ったのだそうです。

弔問が終わると家族がホームレス達に訳を聞きました。
「失礼ですが、母とはどんなお知り合いでしたか。」

訳を聞いて家族はびっくりしました。
看護婦さんは家族も知らないことをしていたのです。

山谷って皆さん知っておられます。大阪のあいりん地区と並んで東京のホームレスの町です。
看護婦さんはなんとそこへ時たま行き、病気のホームレスを病院に連れて行って治療をしていたそうです。
そのことは家族さえ知りませんでした。
そのホームレスの中には命を救ってもらった方もいたそうです。

母はすごいことをした。

娘さんは母親を尊敬したそうです。

もしかしたら近くにもそんな人がいるのかもしれませんね。
それともあなたがそんな人か？

お読みいただきありがとうございました。

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n1705d/

お手軽６００字エッセイ　その２

2010年11月19日07時24分発行